

第29回 こうう地域チームケア研究会



くすのきセンター

1階 研修室

平成29年11月9日(木)

交 流 会

- 講演を聞いた感想・もっと知りたいこと
 - 実際に困った事例、その解決策 など
- ✿グループ発表後は、自己紹介タイムです。

話題提供の感想(事例報告について)

- ・自分で何でもできるといわれる利用者さんへのかかわりについて、どのように対応するよいのか。事例報告が参考になった。本人の自己管理をしたいという気持ちを大切にした支援、連携が大切。
- ・在宅で行われている服薬支援の実態をはじめて知った。
- ・本人の自己管理したいという意欲を大切にされているところがすごい。
- ・施設でケアマネジャーをしている。在宅との服薬管理の違いを感じた。在宅での管理は大変だと感じた。

話題提供の感想(残薬について)

- ・薬が大量にあり、薬手帳でも把握できない方、独居の方、家族への支援は難しいと思った。
- ・薬を減らすことは大変難しい。
- ・一度にたくさんの薬が処方される場合、残薬が出やすくなってしまう。
- ・残薬を減らすには、患者の状態を常に多職種間で情報交換できる場が必要ではないかと思った。
- ・薬が余っている方には薬局に持ち込んでもらうように声をかけているが、医師に悪いからできないという方もいる(薬をもらわないと医者に迷惑がかかると思っている方がいる)。残薬利用の説明をしていく必要がある。
- ・残薬は、整理することで、その人の薬としての再活用出来ることを知ることができた。患者さんの負担が減るのではないだろうかと思った。

現 状

- ・薬の飲み方を自己調整してしまう患者も多い。
- ・薬が処方してもらえるまで、いろいろな所に受診をされる方や多科にかかるお薬を別々の薬局からもらっている方の場合や食前薬のある方などの服薬管理は難しい。
- ・デイサービスでは送迎時に服薬できているか確認しているが、よくわからないこともある。また、利用者の処方薬が変更になっていると、持参されたとき確認ができず大変である。
- ・薬管理ができていない人が増えているように感じている。
- ・主治医の前では薬を飲めているといわれる人が多いと感じる(実際は飲めていなくても)。
- ・薬カレンダーは、高齢者だけではなく子どもにも活用できている。
- ・薬について家族から医師に相談。うまく説明ができず連携の難しさを感じることがある。
- ・居宅療養管理指導により、薬剤師さんに複数の薬局から出されている薬を管理してもらえて助かっている。

現 状

- ・入院時には家にある薬を持ってきてもらうが、たくさん残っている場合もある。
- ・訪問看護師が支援の中で服薬支援に多くの時間を要してしまう場合がある。
- ・服用できていない薬のことを主治医が知らない場合もある(患者から飲めていないことが伝わっていない)。患者の様子を医師とも共有できるようにする必要があると思った。
- ・残薬整理に対応できないといわれる薬局もあったが、現状はどうなっているのか知りたい。
- ・薬手帳の活用について十分浸透はしていない。

薬剤師との連携について

- ・薬剤師を通じて先生に薬の内容について相談することもできる。
- ・薬剤師の在宅での関わりについて、知らない人も多いのではないだろうか
- ・薬剤師が介入することで家族が薬のことを理解できる場合もある。実態がわかると適切なアドバイスができる。
- ・同じ薬局にかかることについての利点(そこで薬手帳を持参する利点)あり。かかりつけ薬局の意義を周知できるとよい。
- ・薬剤師による「居宅療養管理指導とは」どのような内容か理解する必要があると思った。
- ・訪問看護師、薬剤師が協働で服薬管理を行える。
- ・薬に関することは何でも身近な薬剤師に相談してもらえると良い。
- ・入院中は病院で管理をして、退院後も服薬管理がきちんと行えるようにするには、退院時から薬剤師さんに介入してもらえると良いと思う。どこに相談すればよいか。
- ・薬、特に粉薬は口に残りやすい。残ったままになっていないかの確認必要。

多職種連携による服薬支援

- ・正しく服薬をしてもらうためには、多職種連携が必要。普段の患者さんの様子を把握していないと難しい。多職種で情報共有をしっかりと行うことが大切。
- ・服薬支援のキーワードは「積み重ね」ではないか。チームケアの中で課題を積み重ね皆で共有し解決していくことの大切さを確認できた。
- ・ケアマネジャーの基礎資格によって、医療面の苦手意識がある場合も聞くが、多職種との交流を積み重ね、学んでいくしかないと思っている。
- ・薬管理ができていない人が増えているように感じている。その人にかかわっている多職種が同じ方向に向かって支援をする、多職種間での情報共有が必要だと思った。
- ・どのような形態が飲みやすいかなど、日々の薬に対する困りごとに対して多職種で相談しあうことが必要であると感じた。
- ・電子媒体の活用(あさがおネット、琵琶湖メディカルネット)で今後安全に薬が管理でき提供できる環境が整えられるとよい。

多職種連携による服薬支援(これから)

(こんなことができるといい)

- ・薬手帳を受診時に持参すると重複処方を防げるのではないか。保険証、診察券と共に薬手帳も3点セットとして、受診時に確認するようにできるといいのでは。
- ・かかりつけ薬局を持てるような働きかけが必要ではないか。
- ・一つの職種だけでは解決できないが、多職種で相談すること、情報を共有することで解決できるのではないか。
- ・病院の医療相談員を通じて、主治医に薬の相談をすることができるので、連絡を入れてもらえると良い。
- ・薬手帳にケアマネジャーさんの名刺つけてみませんか？
以前にも提案されていた意見ですが、名刺が薬手帳にあると、互いに連絡が必要なときに活用できると思うので、地域包括支援センターからも広めていきたい。
- ・薬局への残薬の持ち込みについて住民に周知を。